

殺菌剤

日曹

ムッシュボルドー[®] DF

銅水和剤



／手軽に運べて！



特長

- 1 希釈倍数が500～1,000倍で通常の殺菌剤同様の保管・輸送・希釈作業が可能です。
- 2 有効成分である銅は、糸状菌・細菌を含む幅広い病原菌に対して抗菌力を示します。
- 3 既存のボルドー剤と同様に保護効果があり、殺菌剤耐性菌対策としても有効です。
- 4 製剤の最適化等により安定した効力を示します。
- 5 有機JAS適合農薬として使用できます。

らくらく防除！



殺菌剤

日曹 ムッシュボルドーDF



●成分:塩基性硫酸銅…71.2%(銅として40.0%) ●殺菌剤分類 M1 ●毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称) ●包装:1kg×10袋

適用病害虫名と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	銅を含む農薬の 総使用回数	使用方法			
ぶどう	べと病、さび病	500	200～700 ℓ/10a	発病前～発病初期	—	—	散布			
マンゴー	軸腐病									
びわ	がんしゅ病									
キウイフルーツ	かいよう病									
いちじく	疫病									
かんきつ	幹腐病(ゆず)	100	0.3～0.5ℓ/樹				発生前～発生初期	—	—	無人航空機 による散布
		500～1,000	200～700 ℓ/10a							
	かいよう病 そうか病	8	8～10ℓ/10a							
		16	16～20ℓ/10a							
		32	30～40ℓ/10a							
		黒点病 カタツムリ類、ナメクジ類	500	200～700 ℓ/10a	葉芽発芽前まで					
小粒核果類 (すももを除く)	かいよう病	開花前まで								
					すもも	かいよう病、黒斑病、ふくろみ病 縮葉病				
もも	せん孔細菌病									
ネクタリン		褐色せん孔病								
おうとう	収穫後									
トマト	疫病	100～300 ℓ/10a		発病前～発病初期	散布					
ミニトマト										
きゅうり										
はくさい										
ブロッコリー										
アスパラガス										
こんにゃく										
しょうが										
ばれいしょ										
茶			赤焼病、炭疽病 もち病、網もち病			500～1,000	200～400 ℓ/10a	摘採7日前まで		

効果・薬害等の注意

- 所要量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布してください。
- 石灰硫黄合剤等アルカリ性薬剤との混用はさけてください。
- かんきつに使用する場合は、次の事項に注意してください。
 - ①発芽期以降は葉害(スターメーノーズ)を生じるおそれがあるので、葉害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。特に果実の着生期の散布では厳守してください。樹勢の弱い樹や異常気温が予想される場合は使用をさけてください。
 - ②無人航空機による散布に使用する場合は、葉及び果実に薬害を生じるおそれがあるので、幼果期以降は使用しないでください。また周辺作物への飛散による薬害に十分注意してください。
 - ③黒点病に使用する場合は、多発生が見込まれる場合には、十分な効果が得られないおそれがあります。
 - ④ゆずの幹腐病防除に100倍で使用する場合には、枝幹の病斑部に処理することとし、果実に薬液がかからないように注意してください。
- ぶどうに使用する場合は、果房に薬害を生じるおそれがあるので、袋かけ前には使用しないでください。また、無袋栽培では収穫まで使用をさけてください。袋かけ後あるいは無袋栽培の収穫後は葉に薬害を生じるおそれがあるので、銅に弱い品種や薬害の出やすい時期に使用する場合は、薬害発生軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- ももに使用する場合は、収穫終了後の使用は薬害(落葉)を生じるおそれがあるので、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- すももに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、銅に弱い品種や薬害の出やすい時期に使用する場合は事前に確認十分注意してください。
- おうとう、いちじくに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- はくさい、ブロッコリーに使用する場合は、薬害を生じやすいので、次の事項に注意してください。
 - ①薬害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を必ず加用してください。
 - ②症状が強くなる高温時の散布はさけてください。
 - ③収穫間際の散布は汚れを生じるため留意してください。
- ナメクジ類、カタツムリ類には食害防止を目的として使用してください。
- キウイフルーツに使用する場合は、薬害を生じやすいので次の事項に注意してください。
 - ①薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
 - ②黒色系、赤色系の品種では葉及び果実に薬害を生じる場合があるので生育期には使用しないでください。
- しょうがに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。

- アスパラガスに使用する場合は、高温多湿時には薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- 本剤は無機銅剤であるので、あぶらな科野菜、いんげん、稲、レタスには薬害を生じるおそれがあります。これらの作物が周辺にある場合は飛散しないように注意してください。
- 蜜に対して毒性があるので、蜜にはかからないように注意して散布してください。
- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ①散布は散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ②散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に被害を生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ⑤散布終了後は機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また、使用後の空の袋は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- 使用済みの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意

- 誤飲・誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の担当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の担当を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の担当を受けてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長スポン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は、2026年8月現在の登録内容に基づいています。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号

お問合せ (03)4212-9655

(平日9~12時、13~17時、土日祝日を除く)



最新の登録内容、SDSはこちら